

令和3年度入学生用 カリキュラムチェックリスト  
《先端技術科学教育部博士後期課程 システム創生工学専攻》

知能情報システム工学コース

・ディプロマ・ポリシーに特に強く関連するものは◎、関連するものは○を記入する。

科目名		ディプロマ・ポリシー						科目の教育目標
		【1. 専門知識と卓越した技能】 工学における幅広い教養と情報通信及び知能工学における専門的な知識及び卓越したスキルを備え、即戦力として実社会で応用する能力を有する。	【2. 問題解決能力と創造能力】 問題を発見、設定、分析、解決するだけでなく、それをヒントに新しいものを生み出す能力を有する。	【3. 論理的表現能力】 問題とその解決方法及び解決結果を明確かつ論理的に表現する能力を有する。	【4. 自立的学習能力】 未知の分野に対する興味を持ち、不足している知識があれば、自発的に修得する能力を有する。	【5. コミュニケーション及びリーダーシップ能力】 コミュニケーション及び役割分担を確立して、グループによる共同プロジェクトを管理運営する能力を有する。	【6. 国際的なネットワーク構築及び情報発信能力】 国内のみならず国際社会に対して、情報を発信したり、吸収したりする能力を有する。	
総合科目	生命科学	○			○			蛋白質の多様な機能の理解 蛋白質工学の原理と応用の理解
	社会科学	○			○			経済立地の諸相を理解した上で、地域経済の現状と課題、地域政策の評価ができる。
	科学技術論	○			○			近代以降の科学技術論の概要と現代社会における文化的意義、社会との関連を理解する。
	ニュービジネス特論		○		○	◎		ベンチャービジネスを起業するために必要な知識を習得するとともに、ビジネスプランを作成できるようにすることを目標とする。
	技術経営特論	○	◎	○	○	◎	○	【ユーザー中心主義】ユーザー、市場観察から課題抽出ができる。 【フィールドワーク】課題に関連するフィールドワークを実施し、その情報から課題を正確に分析できる。 【アイデア創出】独創的、創造的なアイデアを提案できる。 【プロトタイプ】作成したプロトタイプをユーザーに利用してもらい、各種フィードバックの内容を基に改善できる。 【協調性】作業分担の割り振り、仕事量の分担も適切にメンバー全員で活動する。 【プロジェクト管理】定められた期間内に、メンバーリソースを管理して最終のソリューション提案まで作り上げる。
	国際先端技術科学特論1					○	◎	世界の先端技術・科学に関する専門的内容を学修し、国際的な技術動向や科学の実情について理解を深める。 先端技術・科学に関する専門的内容を英語で理解し、英語による表現力やプレゼンテーション力を深める。
	国際先端技術科学特論2					○	◎	先端技術・科学に関する専門的内容を学修し、外国の技術動向や産業の実情について理解を深める。 先端技術・科学に関する専門的内容を理解し、英語によるコミュニケーション力を身につける。
	長期インターンシップ(D)	○	◎		○	○	○	自身の専門性や技術の価値を経営的な視点を持って語ることができる。 技術と社会のつながりを広くとらえ、共同研究等の中で高い倫理感を養う。 探究した課題に取り組みマネジメント力
	ビジネスモデル特論	○	○			○		1. 技術や資源を活用したビジネスモデルの基礎的知識を習得する。 2. ビジネスプランを作成し、その内容を伝える能力を習得する。
	プレゼンテーション技法(D)			◎			○	学会、会議における発表の知識・経験を有する。
企業行政演習(D)	○	◎		○	○	○	組織の仕組みや業務の流れ、組織目標を達成するための戦略と実践を理解する。 実社会、職場における人間関係やマナーなどに対する理解を深める	
課題探求法(D)	○	◎		○	○	○	企業との共同研究や、それを通じたベンチャービジネスおよび地域連携活動へ展開した経験・知識を有すること	
環境工学科目	資源エネルギー変換特論	○	○		○			各種エネルギー形態およびその利用に関する基礎的事項を理解し、環境に調和するエネルギーの有効利用、エネルギー保全について思考する能力をつける。
専門科目	自律適応システム工学	◎	○	○				強化学習、進化計算、遺伝プログラミング、ニューラルネットなどの要素技術とそれらの融合に基づく自律的かつ適応的な知能システムおよびマルチエージェントシステムの創発的デザイン方法論の概要ならびに応用の可能性と限界を理解する。
	視覚パターン処理工学	◎	○	○	○			視覚パターンの処理理論とその多方面への応用技術及びカラー画像の処理技術の習得
	マルチメディア伝送工学特論	◎	○	○			○	マルチメディア情報蓄積/通信システムのための基盤技術の理解 マルチメディア情報蓄積/通信システムの開発技術の理解
	情報集積設計学	◎	○	○	○		○	この講義は工学者と科学者がVLSI・ニューロ・コンピューティングの基礎的な知識を習得することを目標とする。
	並列・分散処理システム設計特論	○		○	◎			並列・分散処理システムのアーキテクチャの理解、WWWシステムの設計、安定論に基づいた制御系の解析と設計、および、学習機能を持つ並列分散システムの理解ができる能力を養成する。
	応用知識システム設計特論	◎	◎	○				高度な情報システムを構築するための各種手法や実現方法を修得させる。
	知能情報システム設計特論	○	◎	○	○			知的インターフェイスや教育情報システム等のデザイン方法論を説明できる

科目名	ディプロマ・ポリシー	【1. 専門知識と卓越した技能】	【2. 問題解決能力と創造能力】	【3. 論理的表現能力】	【4. 自立的学習能力】	【5. コミュニケーション及びリーダーシップ能力】	【6. 国際的なネットワーク構築及び情報発信能力】	科目の教育目標
		工学における幅広い教養と情報通信及び知能工学における専門的な知識及び卓越したスキルを備え、即戦力として実社会で応用する能力を有する。	問題を発見、設定、分析、解決するだけでなく、それをヒントに新しいものを生み出す能力を有する。	問題とその解決方法及び解決結果を明確かつ論理的に表現する能力を有する。	未知の分野に対する興味を持ち、不足している知識があれば、自発的に修得する能力を有する。	コミュニケーション及び役割分担を確立して、グループによる共同プロジェクトを管理運営する能力を有する。	国内のみならず国際社会に対して、情報を発信したり、吸収したりする能力を有する。	
	情報基盤システム特論	◎	○	○	○			情報基盤システムおよびそのマネジメントシステムに関する概念を説明できる 暗号技術を含むセキュリティ技術の知識と実践的技能について説明できる
	感性情報処理特論	◎	◎	○	○			感情認識、感情創生、および感情表出の理論や技術や実現方法について理解する。
	知能情報システム工学特別演習	◎	○	◎	○	◎	○	関係する学会や学科の全体発表会でプレゼンができること
	知能情報システム工学特別研究	◎	◎	◎	○	○	◎	他分野も含めた幅広い知識・技術の習得